



＊西瓜専用台木
いよいよ真価発揮

オコト交配

ライオン冬瓜

タイガー印 1d絵袋詰(約350粒)



原因不明の青枯性イチヨウ病(バツタン病)も
ライオン冬瓜で恐ろしい病状の不安解消……ノ

近年台木の土壌病害発生が多発し、夕顔台木から南瓜台木に変わりつゝあるが、南瓜台木は定植時点の土壌水分及び地力により生育や果実の品質が不安定であり、土壌管理、肥培管理を天候と合せる事が非常に困難で、以上の点を克服すべく育成したのが《ライオン冬瓜》です。

西瓜の着果・形状・品質抜群

- ① 本種は熱帯地方の野性種に近い種類間の交配種で親和性が良く、青枯性のイチヨウ症状(バツタン病)の発生なく生育は良好である。
- ② 在来の冬瓜に比較し胚茎太く、初期生育は早い、冬瓜の中では接木が極めて容易である。発芽は高温を好み30℃～32℃で5～7日で双葉が展開し、播種後15～20日で本葉1～1.5枚に生育した頃が接木の適期である。
- ③ 育苗床の水分は南瓜同様乾燥させぬよう注意が必要である。育苗日数は夕顔より3～5日長くすると共に定植畑の水分は少し多い方が初期生育が良好である。尚施肥は夕顔より多く施す事によって、一層良果が多収できます。

恐ろしい線虫に断然強い抵抗性

もうこれで
青枯性の
心配無用！
イチヨウ症の



■肉質にも自信満々

病害一掃

快調の大進撃！

なぜ……こんなに 人気を呼んでいるのか

● 瓜類の接木栽培も全国的に普及すると、初期は抵抗性台木と言われた台木品種でも、病虫害の発生を見ることが多くなり、特に土壌病害の確実な防除対策が少なく、産地では連作により、土壌病害の発生は急激に増加し、品質を低下させ、収量を減収させている。

西瓜栽培に於いてもユウガオの台木から、南瓜台木にうつり変ると思われたが、南瓜台木では我国の西瓜栽培に於いて、土壌水分及び空気中の湿度が高く、しかもチッソ肥料の吸収力が強い関係から、ツルボケや品質の低下等で安定した台木とは言えない。これは西瓜の根の性質と、南瓜の根の性質の特性が大きく異なる点が多い関係ではないかと思われている。

ライオン冬瓜は、西瓜の根と比較すると少し太いが、ユウガオに比較して細く、根は深根性で耐乾性は極めて強く、我国では冬瓜の栽培が少なく、西瓜産地の土壌中にはライオン冬瓜を罹す病虫害がなく、特にユウガオの青枯イチョウ病には耐病性で、青枯の発生を防止することができる。又畑作地帯では線虫の被害が多く見受けられ、品質を悪化させているが、この線虫にも強い抵抗性をもっている。(下の写真参照)

管理上の注意点……ここが 大切なポイント

● 発芽温度は夕顔より高温を好むので、30～32℃が適温で、播種後5～7日で発芽揃となり、初期生育も良い。胚茎を太くするには、発芽後は日中温度を30～32℃を保

ち、夜間は15～20℃に保温すれば良い苗ができる。播種後15～20日で本葉1枚目が半展開に生育するが、この時期が接木の適期である。胚茎は濃緑色で中空は細く、弾力性に富んでいるので接木の適期中が広く、双葉展開から本葉2枚の生育時期まで接木作業ができる。

● 接木方法は挿接、割接、呼び接、断根接木と何れも親和性高く、生育は良好である。西瓜の雌花分化発育は日照量が多ければチッソを多く吸収しても、着花不良とはならないが、しかし促成やトンネル栽培では、日照量が少く弱い時期であるから、南瓜やユウガオのようにチッソ吸収の強い台木は、低温管理や土壌水分で栄養生長を抑制して、花芽分化や雌花の生育を良くしているが、ライオン冬瓜は初期のチッソ肥料の吸収と、土壌水分の吸収力が弱いので、定植時の苗の大きさや土壌水分、保温、施肥の点について充分注意することが肝要です。

● 育苗日数はハウス定植苗で50～55日、トンネル苗で45～50日とユウガオに比較して少々若苗定植するとよい。定植時の土壌水分は、ユウガオよりも多くてもツルボケがなく、むしろ水分が多い方が活着も良く、初期生育も早くなる。

● 肥料はユウガオ(さきがけ)に比較して15～20%を元肥、追肥に増量すれば、耐乾性が強いから2～3番果まで良果を収穫でき収益をあげることができる。

● 定植後のハウスやトンネル内の気温は、昼夜共にユウガオに比較して2～3℃高目に保温管理をすれば、初期生育も良好となる。

● 収穫期はユウガオよりも2～3日成熟日数が短く、従って早く成熟するから、収穫期が遅くならないようによく注意し、熟度を時々調査して適期に収穫することが大切です。



右||ライオン冬瓜 根は細く深根性、根コブ線虫にはこのように抵抗性で、ツル持ちが特によい。
左||ユウガオ 根は深根性であるが、線虫の害が大きく品質を悪くしている。

▶ 状況。ライオン冬瓜の接木育苗で定植四十五日前の

